

文末の「って」「んだって」と対応する韓国語について

— 元話者（情報源）が第三者の場合を中心に —

李 光輝（イ・カンヒ）

要旨

文末の、元話者（情報源）が第三者の場合の「って」「んだって」について、対応する韓国語を考えると、「って。/って？」や「んだって。」には引用表現が、「んだって？」には「-다면서 tamyense ?」という文末複合語尾が対応する。

「って」は、基本的に引用であり、文脈より様々な用法を現すようになるものだと考えられるが、対応する韓国語において、引用表現になることが、一つの傍証になると考えられる。

これに比べ、「んだって。」は、認識系の伝聞であり、伝聞は、意味論的な意味として確立しているように見える。韓国語では、認識系の伝聞はなく、引用表現による伝聞が対応することになる。

ところが、「んだって?」「って?」は、伝聞情報（後者においては、聞き手における伝聞情報であると、話し手が想定したもの）であることを表すものの、聞き手にその情報を伝えるという伝達性に欠けており、もはや伝聞とはいいいくいと考えられる。問いかけることによって、確認をもとめることから、本稿では、前者を「伝聞情報の確認要求」、後者を、「引用の確認要求」としている。

「-다면서 tamyense ?」は、もっぱら「伝聞情報の確認要求」の意味機能をもつことになるが、「-다면서 tamyense ?」に対応する日本語を考えると、目上の人に対し「そうですね」のような表現になる。韓国語では、丁寧さを表す「요 yo」の接続した「-요 tamyenseyo ?」になり、「-다면서 tamyense ?」に比べ、「んだって」には使用における制約があることがわかった。

また、「って」「んだって」や「-다면서 tamyense」の認識的な意味に関しては、引用することによる、または引用の形式を含むことによる証拠性だと考えられる。

今後、「って」「んだって」や「-다면서 tamyense」のような文末表現に関しては、伝聞や確認要求の形式を含めた網羅的な分析が必要であろう。また、文法化の観点からの考察や、他の元話者（情報源）が話し手、聞き手の場合における文末表現をも含めた考察が必要であるが、今後の課題である。

キーワード 引用、引用系の伝聞、認識系の伝聞、伝聞情報の確認要求、証拠性

1 はじめに

話し言葉の「って」は、文末において、さまざまな意味機能や用法を表すことが指摘されており、引用構文との関連から研究が進められてきている。多くの先行研究における「って」の考察において共通する観点は、「～って」における「～」の元話者（または情報源）が誰か、つまり話し手自身、聞き手、第三者のうち誰かという点であり、これによって「って」文は、大きく三つに分類されてきた。

本稿では、「って」の元話者が第三者の場合に注目し、それに対応する韓国語について考えてみる。(1)は、話し手が第三者から聞いた内容を聞き手に伝える例であり、(2)は、聞き手が第三者から聞いた内容について、話し手が問いかけるような例であるが、対応する韓国語では引用表現¹が使われる。

(1) どうも…。(と、電話を切る。大塚愛たちに) いないって。(パパ²)

(1) …없대 (없다고 해). … eps-ta-y (eps-ta-ko ha-y)³

いない-ta-y : tako hay の縮約形 (ta-ko ha-y : と言っている / そうだ)

(2) (気象情報を見ている聞き手に) 雨、降るって? (作例)

(2) 비 온대 (온다고 해)? pi o-n-ta-y (o-n-ta-ko ha-y)

雨 降る-[現在形]-ta-y (ta-ko ha-y : と言っている / そうだ)

ところが、元話者が第三者の場合、日本語では「のだ」と「って」の結びついた「んだって」が頻繁に使われる。

(3) パパね、しばらく帰ってこれないんだって。 (子供)

(3) 아빠 말이야, 얼마간 집에 못 돌아온대 (돌아온다고 해).

Appa maliya emmagan cipey mos tolao-n-ta-y (o-n-tako ha-y)

パパ のことだけど しばらく 家に [否定] 帰ってくる-[現在]-ta-y

(帰ってくる-[現在] ta-ko ha-y : と言っている / そうだ)

(4) (あかねちゃんの新しいパパが) カッコいいんだって? (子供)

(4) 멋있다면서 (* 멋있대 /* 멋있다고 해)?

mesiss-tamyense (mesiss-ta-y/mesiss-ta-ko ha-y)

カッコいい-tamyense (カッコいい-t-ay/カッコいい-と言っている / そう)

だ)

(3)は第三者からの情報を聞き手に伝える文であるのに対し、(4)は第三者からの情報を持ち出して聞き手に確認を要求するような文である。対応する韓国語は、(3)の場合、(1)や(2)の「って」と同様、引用表現が使われているのに対し、(4)では引用表現は使われず、間接引用構文に接続助詞のついた「-다-고 하-면서 ta-ko ha-myense (～といいながら)」が文法化した文末複合語尾の「-다면서 tamyense」が対応し、対応にずれがあることがわかる。

以上をまとめると、表1のようになる。(便宜上、日本語には、問いかけの場合「?」、述べ立ての場合は「。」を付け加えている。韓国語には、「んだって?」に対応する「-다면서 tamyense」にのみ「?」をつけておく。また、対応する韓国語は、聞き手に対する待遇により、丁寧体などになることも可能であるが、本稿では、便宜上「-대 (다-고 해) ta-y (ta-ko ha-y)」を代表形として使うことにする。)

日本語	韓国語
って。	-대 (다-고 해)
って?	ta-y (ta-ko ha-y)
んだって。	(と知っている / そうだ)
んだって?	-다면서 tamyense?

表1 元話者(情報源)が第三者の場合

以上のような対応のずれを指摘し、考察したのは、本稿が始めてであるとみられる⁴が、以下、本稿では、元話者(情報源)が第三者の場合の「って」「んだって」と、それに意味機能的に対応する韓国語との対照を行い、表1のような対応のずれの原因について考える。このような対照的な考察は、日本語や韓国語のそれぞれの言語の考察に、一つの手がかりとなることだろう。

考察に入る前に、2では、日本語と韓国語の引用に関して、先行研究をふまえながら、両者の相違などを概略する。また、「って」「んだって」、「-다면서 tamyense?」に関する先行研究などをまとめ、本稿における立場を述べる。

2 先行研究と本稿における立場

2.1 日本語と韓国語の引用

日本語の引用に関する代表的な研究には、鎌田（1983、1988、2000）、砂川（1987、1988、1989）、藤田（1986、1991、2000）などがあり、韓国語の引用に関する代表的な研究には、남기심 Nam, Kisim（1971、1973）、이상복 I, Sangpok（1983）、이필영 I, Pilyeng（1992）、안경화 An, Kyenghwa（1995）などがある。

引用の定義や直接引用、間接引用などの分類は、研究者によって異なるところがあるが、ここでは議論の詳細は割愛し、日韓の引用構文に関する特徴を概観し、両者の相違を概略するだけにする。

日本語と韓国語の引用構文は、両方とも「主格補語＋引用節（被引用文＋引用助詞）＋引用動詞」の構造をもち、類似しているが、被引用文の構造や引用助詞の関わり方など詳細において異なる特徴をもつ。

まず、引用助詞に関しては、日本語では、直接引用、間接引用にかかわらず、「と」が使われるのに対し、韓国語では、直接引用には「라고/하고 lako/hako」、間接引用には「고 ko」が使われるという特徴がある。

また、形態的な区別のない日本語の直接引用、間接引用に比べ、韓国語の間接引用は、「고 ko」の接続できる被引用文のムード語形が、図1のように、すでに決まっているという形態統語的な特徴がある。

	動詞	形容詞	指定詞 ⁵	
平叙形	-다 ta	-다 ta	-라 la	+ 고 ko
疑問形	-느냐 nunya	-(으)냐(u)nya	-냐 nya	
命令形	-(으)라(u)la			
勧誘形 ⁶	-자 ca			

表2 間接引用における被引用文のムード語形 남・고 Nam・Ko（1993：385）

(5)は作例であるが、引用文が平叙文（aでは動詞、bでは指定詞）、疑問文、命令文、勧誘文の場合をそれぞれ例示したものである。

- (5) a. 학교에 다닙니다. hakkyo-ey tani-pnita
 学校に 通（う）-丁寧体（学校に通っています。）
- a'. 학교에 다닌다-고 합니다. hakkyo-ey tani-n⁷ta-ko ha-pnita
 学校に通（う）-現在-平叙形-と言う-丁寧（学校に通っていると言って

- います / そうです。)
- b. 대학생입니다. tayhaksayng-i-pnita
 大学生-である-丁寧 (大学生です。)
- b'. 대학생이라고 합니다. tayhaksayng-i-la-ko ha-pnita
 大学生-である-平叙形-と 言う-丁寧 (大学生だと言っています。)
- c. 학교에 갔습니까? hakkyo-ey ka-ss-supni-kka?
 学校に 行(く)-過去-丁寧-疑問
 (学校に行きましたか。)
- c'. 학교에 갔느냐고 합니다. hakkyo-ey ka-ss-nunya-ko ha-pnita
 学校に行(く)-過去-疑問形-と 言う-丁寧 (学校に行ったかと言っています。)
- d. 빨리 먹어라. palli mek-ela.
 早く 食べ(る)-命令 (早く食べろ。)
- d'. 빨리 먹으라고 합니다. ppalli mek-ula-ko ha-pnita
 早く 食べ(る)-命令形-と 言う-丁寧 (早く食べろと言っています。)
- e. 빨리 갑시다. ppalli ka-psita
 早く 行(く)-勧誘 (早く行きましょう。)
- e'. 빨리 가자고 합니다. ppalli ka-ca-ko ha-pnita
 早く 行(く)-勧誘形-と 言う-丁寧 (早く行こうと言っています。)

このような間接引用の場合、話し言葉において、引用助詞と引用動詞の語幹の「고 하 ko ha-(といい)」が頻繁に省略されるという特徴がある。

韓国語の引用構文と関連して、注目に値するのは、韓国語には日本語の「そうだ」のような伝聞を表す専用の語彙がなく、間接引用が、文脈によって伝聞の役割をも担っているということである。たとえば、(5b)のような例は、文脈によっては伝聞になり、日本語では「大学生だそうです」という表現に当たる。

ただし、伝聞の役割をする引用表現は、引用動詞の主語を表すことができず、また「하다 hata (言う)」は過去形や進行形、推量の表現にならないなどの形態統語的な特徴をもつ。Kim, Nam-Kil (1990)では、このような特徴を詳しく考察し、伝聞の機能をもつ引用文は、「引用証拠文 (quotative (or hearsay) evidential)」だと述べている。本稿では、いわゆる「引用証拠文」を含める意味で「引用表現」という用語を使っている。

引用表現が文脈により伝聞の機能を担うという特徴は、以下で取り扱う文末の「っ

て」や「んだって」に対応する韓国語を考える際の重要なポイントになってくるが、詳細については、3で述べることにする。

2.2 文末の「って」「んだって」

文末の「って」に関する先行研究には、森重（1954）、堀口（1995）、三枝（1997）、野村（2000）、岩男（2003）、金（2005）などがあるが、共通している観点は、元話者が誰か、つまり、話し手自身、聞き手、または第三者のうち誰かという点である。

森重（1954）は、文中の「って」などに関係づけた分析の中で、文末の「って」は、「伝聞の助動詞相当」のもの、「反芻的反問」の意味をもつもの、「文末の「ってば」から二次的に成立したもの」に分けているが、それぞれ、元話者が第三者、聞き手、話し手自身ということになる。

また、守時（1994）では、引用される発話が、すでに発話されているか否か、それが話し手、聞き手、第三者の誰によるものかによって六つに分類しており、また、堀口（1995）では、引用された発話が現在の会話における発話か、時空間的に現在とは異なる会話における発話かによって二分し、前者は聞き手と話し手の場合、後者は六つ（話し手と聞き手共に元発話の場にいた場合の二つと、どちらか一方だけが元会話にいた場合の四つ）に分類し、さらに細かい用法を提示している。

野村（2000）は、主に「伝聞用法」にスポットを当てた論文であるが、「情報発信元」というファクターを用い、大きく、自己情報と他者情報の引用に分け、他者情報は、第三者情報の伝聞用法、聞き手情報の問い返し用法に分けている。

また、岩男（2003）では、元話者が誰かに注目し、元話者が聞き手の「知識未定着用法」、話し手自身の「押し付け用法」、「表出的用法」、第三者の「伝聞的用法」に分けている。さらに、藤田の引用の定義「所与と見なされる言葉を再現しようとする形で表すもの」の性質をどれくらい保持しているかという観点から、それぞれの用法の「って」について文末形式への移行が始まっているか否かを検討しており、「押し付け用法」と「伝聞的用法」について文末形式への移行が進んでいると述べている。

金（2005）では、元話者が誰かという分類のもとで、「場の二重性」をキーワードに、主格補語を表すことができるか否か、述語想定可否などという観点から、「って」の引用的性質を考察しており、岩男における「所与」をキーワードにした文末形式への移行の程度の考察を、より具体的なものに行っているといえる。

しかし、文法化（文末形式への移行）⁸が認められるとされる、たとえば元話者が不特定の第三者の「って」や、「押し付け用法」の「って」なども、形態的には一つの形式で

あるため、それを他の、引用としての性質をより保持しているとされるものと区別する形態的な手立てはない。以下、本稿では、元話者（情報源）が第三者の「って」と、それに対応する韓国語の文末表現との対照を通じて、「って」の意味機能を見直すことにする。

「んだって」に関しては、それが独立した表現であり、「（する）そうだ」のように、第三者からの情報を伝える機能をもつことが明らかになっている。Kamada (1986)⁹、鎌田 (2000) では、「んだって」が過去形にも否定形にも変化できないが、「（する）そうだ」とは違い）上昇イントネーションによる疑問化は可能であると指摘している。宮崎他 (2002) では、疑問化した「んだって」は、ほぼ「（する）そうだね」と置き換えられると述べている。

宮崎他 (2002) では、伝聞の「証拠性」と関連し、「認識系の伝聞形式」と「引用系の伝聞形式」に分けているが、彼らによると、「んだって」は前者に、「って」は後者に当たることになる。しかし、問いかけにおける「って」や「んだって」までも伝聞形式とするのには当然のことながら無理があると見られ、本稿では、「って?」「んだって?」を区別し、記述を行うことにする。詳細は、3.1で述べる。

2.3 「-다면서 tamyense」

「-다면서 tamyense」に関する代表的な研究は、한길 Han, Kil (1991 (2003))、이필영 I, Pilyeng (1993) などがあるが、한길 Han, Kil (1991 (2003)) では、現代韓国語の終結語尾の考察に、文末の「-다면서 tamyense」を含めており、이필영 I, Pilyeng (1993) では、引用構文における縮約を網羅的に取り扱う中で、文末の「-다면서 tamyense」を取り上げている。

これらの先行研究により、文末の「-다면서 tamyense」は、形態統語的には間接引用における統語的特徴を引き継ぎ、引用される文のタイプにより、「-다(라)면서/(으)라면서/자면서 ta(la)myense/(u)lamyense/camyense」¹⁰の形態的なバリエーションをもつことが明らかになっている。また、「P-다면서 tamyense」は、「確認を要求する疑問」を意味し、確認を要求されるPは聞き手、または第三者により直接的または間接的に聞いた発話であることが明らかになっている。また辞書によっては、「-다(라)면서/(으)라면서/자면서 ta(la)myense/(u)lamyense/camyense」が見出し語になっており、現代韓国語において文末の「-다면서 tamyense」は、文末表現としての地位を確立しているようにみえる。

また、Kim, Minju (2006) では、「-다면서 tamyense」のような例を取り上げ、「伝聞証拠性マーカー (hearsay evidential)」であると指摘している。ただし、Kim (2002,

2006) では、「-다 ta」と「-면서 myense」を分けて分析し、「-면서 myense」が「伝聞証拠性マーカー (hearsay evidential)」の文末形式へと文法化していると述べている。李 (2007) では、「-다 ta」と「-면서 myense」を分けての分析の矛盾点を指摘し, 한길 Han, Kil, 이필영 I, Pilyeng のように「-다면서 tamyense」を一つの形式として取り扱い、「-다면서 tamyense」が「証拠性」を表す文末形式へと文法化したものであると述べている。

李 (2007) では、「-다(라)면서/(으)라면서/자면서 ta(la)myense/(u)lamyense/camyense」について、それがさらに元話者が聞き手であるか、第三者であるかによって、形態的、統語的、意味機能的に異なる特徴をもつことを指摘し、それまで区別されることのなかった両者を、タイプⅠ、タイプⅡに区別し、分析している。¹¹

李 (2007) によると、元話者が第三者 (タイプⅡ) の場合、「(する) そうだ」や「んだって」と同様、命令や意向、疑問などのようなムード語形にはつかず¹²、「-다면서 tamyense」のみが可能である。また、(6') のように、元話者を引用動詞「하다 hata (言う)」の主語として表すことができず、「하다 hata (言う)」の統語的機能が消失している。(6') では、Aさんは、「昨日、うちに来ていた」の主語になってしまう。

(6) 어제 집에 왔었다면서요?

ecey cip - ey wa - ss - ess - tamyense - yo.

きのう うちに 来る - 過去 - 過去 - tamyense - 丁寧

(昨日、うちに来ていたそうですね。) (見て)

(6') *A 씨 (元話者) 가 어제 집에 왔었다면서요?

また、文末の「-면서 myense」に見られるような「文脈的矛盾」という意味機能¹³はなく、もっぱら第三者からの情報を伝えながら (伝聞、証拠性)、聞き手にその確認を求めるといった意味機能をもつことなどが指摘されている。¹⁴

以下では、以上のような、元話者が第三者の場合の「-다면서 amyense」と「んだって?」の対照を通じ、伝聞や証拠性の意味について、もう一度考えてみたい。

3 分析

以下では、まず、3.1で、「って」と「んだって」の違いについて、先行研究をふまえながら考察し、3.2で、「って」「んだって」と対応する韓国語について考える。3.3では、韓国語の「-다면서 tamyense?」に対応する日本語について考え、3.4で結論を述べる。

3.1 「って」と「んだって」

韓国語との対照の前に、まず、「って」と「んだって」の違いについて考えてみると、元話者が第三者の場合、「んだって」と「って」は、置き換えが可能であり、(7)では、両者の意味の違いは、はっきりしない。(もちろん、ニュアンスはやや異なる。)

(7) あの店のケーキ、おいしいんだって。(文型)

(7) あの店のケーキ、おいしいって。

ところが、疑問文になると、「んだって」を「って」に置き換えることはできず、両者は異なる意味を表すことになる。

(8) あの店のケーキ、おいしいんだって? (文型)

(8') *あの店のケーキ、おいしいって?

(8)では、話し手は、すでに「あの店のケーキがおいしい」とのことを聞いて知っており、聞き手にも同じ情報があるかを確認している。ところが、(8')では、(8)と同じ意味を表すことはできない。(話し手は、聞き手が、おいしいかということを聞いているか否かを聞いていることになってしまう。)

このような違いは、宮崎他(2002)にも指摘されている。

(9) 彼も来るって? 宮崎他(2002:162)

(10) 彼も来るんだって? 宮崎他(2002:162)

例(9)(10)に関して、宮崎他(2002)では、前者は彼が来るかということを聞き手が聞いているか否かを尋ねているのに対し、後者は、すでに話し手は彼が来ると聞いていて、聞き手にも同じ情報があるかを確認していると述べ、こうした違いから、聞き手の情報に

ついて尋ねる場合には、「んだって」しか使えないと指摘している。

宮崎他（2002）では、伝聞に関連して、「話し手がどのようなことを聞いて知っているか」を伝える¹⁵「認識系の伝聞形式」¹⁶と、「どのようなことが言われたか（言われているか）」を伝える「引用系の伝聞形式」とを区別しているが、「んだって」は前者に、「って」は後者¹⁷に当たることになる。

ところが、当然のことながら、(8)(9)(10)のような問いかけにおいて、「って」や「んだって」が、伝聞の機能を果たしているとは言いにくいと考えられる。伝聞は、自分は直接知らないが、他からの言語表現などによって伝え聞いたということを相手に伝える言いかた¹⁸である。つまり、他からの情報であるという情報把握¹⁹の仕方を表し、その情報を聞き手に取り次ぐという伝達性をもつ。典型的な伝聞形式の「(する) そうだ」は、疑問の形を派生しない²⁰ことから、伝聞の伝達性がうかがわれる。

(8)(9)(10)では、他からの情報、つまり「伝聞情報」であることを表しているものの、それを聞き手に伝えているのではなく、「～って?」「～んだって?」と問いかけている。(8)(10)の「～んだって?」では、聞き手にも話し手と同じような伝聞情報があるかを尋ねており、(9)の「～って?」では、「彼も来る」という伝聞情報（この場合、聞き手における伝聞情報として、話し手が想定した情報）を聞き手が聞いているか否かを尋ねている。

つまり、問いかけの「～って?」「～んだって?」では、伝聞情報であることを表しているものの、それを伝えるという伝達性が欠けていることになる。本稿では、「んだって?」の意味機能について、「伝聞情報の確認要求」、「って?」に関しては、「引用の確認要求」（「って」を引用としてとりあつかうことに関しては、後述）と呼ぶことにする。

宮崎他（2002）では、伝聞²¹の認識的な意味を「証拠性（evidentiality）」としている。証拠性は、話し手が何らかの証拠—話し手自身の観察や他者からの情報など—に基づいて当該事態を認識しているということを表すという性質²²であるが、伝聞は、それが他からの情報に基づいた認識という証拠性を表すことになる。

問いかけにおける「って?」「んだって?」は、もっぱら伝聞情報であること、つまり証拠性のみを表しているのだと考えられる。そして、「んだって?」に関しては、話し手における証拠性を表し、「って?」に関しては、聞き手におけるそれに言及するものだと考えられえ。以下、対応する韓国語との対照を通じて、この点について、もう少し詳しく述べる。

3.2 「って」「んだって」と対応する韓国語について

1で指摘したように、「って」や「んだって」に対応する韓国語を考えると、表1のように、「って。/って?」や「んだって。」には韓国語の引用表現が、「んだって?」には、文末複合語尾の「-다면서 tamyense?」が対応することになる。

ここで、もう一度(1)~(4)の例をとりあげ、考えてみることにする。(1)(2)(3)は、韓国語では引用表現が対応するのに対し、(4)は、文末複合語尾の「-다면서 tamyense」が対応する。

(1) どうも…。(と、電話を切る。大塚愛たちに) いないって。(パパ)

(1) … 없대 (없다고 해).

いない-ta-y: tako hay の縮約形 (ta-ko ha-y: と言っている/そうだ)

(2) (気象情報を見ている聞き手に) 雨、降るって? (作例)

(2') 비 온대 (온다고 해)?

雨 降る-[現在形]-ta-y (ta-ko ha-y: と言っている/そうだ)

(3) パパね、しばらく帰ってこれないんだって。(子供)

(3') 아빠 말야, 얼마간 집에 못 돌아온대 (온다고 해).

雨 降る-[現在形]-ta-y (ta-ko ha-y: と言っている/そうだ)

(4) (あかねちゃんの新しいパパが) かっこいいんだって? (子供)

(4') 멋있다면서 (*멋있대/*멋있다고 해)?

mesiss-tamyense (mesiss-ta-y/mesiss-ta-ko ha-y)

かっこいい-tamyense (かっこいい-t-ay/かっこいい-と言っている/そうだ)

(1)(2)(3)に対応するのは、韓国語の間接引用構文である。韓国語の間接引用構文は、被引用文におけるムード語形が文のタイプにより決まっている(詳細は、2.1)が、ここでは平叙形の「-다 ta」に、間接引用助詞の「ü ko」、「āā hata (言う)」の活用した「해 ha-y (言っている)」のついた「-다고 해 ta-ko ha-y」になる。話し言葉において「-ko ha-」は頻繁に省略され、「-대 ta-y」となる。「-고 하-ko ha」の省略は、「대 tay」が「대 ta-y」と形態的に分析できることから明らかである。

ここで、それぞれの意味機能について考えてみると、(1)は第三者からの情報を伝える伝聞である。ところが、このような伝聞の意味機能について、語用論的なものであり、文脈に依存するものだと考えられる。(1)では、電話の相手(第三者)からの情報を聞き手

に伝えるという文脈によって、伝聞の役割をするようになったものの、「って。」という形式自体が、意味論的に伝聞の意味をもつわけではないと考えられる。

文末の「って」は、先行研究によって指摘されてきたように、様々な意味機能を表し、様々な用法をもつ。(1)における「いないって。」は、それが話し手自身の発話の強調の(「いないってば。」と置き換えられるような)意味にも、聞き手の直前の発話を繰り返すような場面(「いないって…。」)でも使われる。また、不特定の第三者による情報を伝える(7)のような例でも使われる。これらの場合、それぞれの意味機能や用法による形態的な違いはなく、それぞれの意味機能や用法は、文脈に依存するものだと考えられる。

「って」は、「とて」または「といて」からの転²³だとされ、引用構文との関連がうかがわれるが、本稿では、文末の「って」における基本的な意味は、「引用」であると考えられる。前述したような「って」のもつ様々な意味機能や用法は、引用される情報が誰によるものか、また、それがどういう文脈で発せられたものかによって、語用論的に解釈されたものだと考えられる。このように考えると、(1)と(2)に対応する韓国語が、引用構文であることが当然の帰結のようにみえる。

ところが、(3)では、日本語では、もっぱら伝聞を表す「んだって。」が、韓国語では引用表現に対応することになる。3.1で見たように、「んだって」は、「(する) そうだ」のように、認識系の伝聞形式とも言われるようなものであった。韓国語に「(する) そうだ」のような伝聞専用の形式が存在せず、間接引用が、文脈によって、伝聞の役割をも担っていることを考えると、(3)が韓国語で間接引用構文に対応するのも、当然の帰結になる。

最後に、(4)のような「-다면서 tamyense ?」に対応する例について考える。

(11) 山田さん、お酒、きらいなんだって? (文型)

(11') 야마다씨 술 싫어한다면서 (* 싫어한대 /* 싫어한다고 해)?

yamada-ssi swul silheha-n-tamyense (silheha-n-ta-y/silheha-n-takoha-y)

山田さん 酒 嫌い-現在形-tamyense (嫌い-現在 tay/嫌い-現在-だという(そうだ))

(12) 昭和49年の5月に伊豆半島で地震があったんですって? (パパ)

(12') …있었다면서요 (* 있었다고 하면서요 /* 있었다고요).

…issesstamyenseyo (*issesstako hamyenseyo/*issesstakoyo)…

あった-다면서 -tamyense 丁寧

(4)(11)(12)で「んだって?」は、(1)～(3)と違い、韓国語の引用表現は対応できず、文末複合語尾の「-다면서 tamyense?」が対応する。「-다면서 tamyense?」は、間接引用表現の「-다고 하-tako ha (と言(う))」に接続助詞の「-면서 myense (ながら)」のついた「-다고 하면서 ta-ko ha-myense」が文末複合語尾へと文法化したものであるが、「んだって?」と同様、伝聞情報であるとの証拠性を表し、聞き手への確認を要求する問いかけの意味機能をもつ文末複合語尾である。

以下3.3では、「-다면서 tamyense?」と「んだって?」の対応について、もう少し考える。

3.3 「-다면서 tamyense?」と対応する日本語について

情報源が第三者の場合の「-다면서 tamyense?」と「んだって?」に関連して、韓国語のドラマのシナリオの対訳²⁴より、「-다면서 tamyense?」に対応する日本語の訳を調べてみると、「-다면서 tamyense?」は、「んだって?」のほか、「(する) そうだね」にも対応することがわかる。²⁵

(13) 교수님 . 피아니스트 강미희씨랑 친하셨다면서요? (冬)

Kyoswu-nim phianisuthu kangmihui-ssi-lang chinha-sy-ess-tamyense-yo
教授様 ピアニスト カン・ミヒさんと 親しい-尊敬-過去-tamyense-丁寧

(13') 先生。ピアニストのカン・ミヒさんと親しかったそうですね? (冬対訳)

(14) 준상이 ... 기억 돌아왔다면서? (冬)

Cwunsang-i kiek tolaw-ass-tamyense
チュンサン 記憶 戻る-過去-tamyense

(14') ジュンサン、記憶が戻ったんだって? (冬対訳)

例(13)は、年配の教授に対する発話文であるが、日本語の対訳は、「そうですね」となっていることがわかる。これは、日本語の場合、「んだ(です)って」は、目上に対しては使えない²⁶ためであると考えられる。

これに比べ、韓国語では、そもそも「(する) そうだ」のような伝聞専用の形式がなく、目上の人に対しても、「-다면서 tamyense」に丁寧さを表す「요 (yo)」を接続することで、伝聞情報の確認要求を求めることになる。

対訳において、「-다면서 tamyense」は、(15)のように、「(する) そうだな」となっている例も一例あったが、(15)の話し手は、聞き手の元担任であり、年配の男性である。

- (15) 유진이 너, 상혁이한테 시집간다면서? (冬)
 (15') ユジン、おまえ、サンヒョクと結婚するそうだな? (冬対訳)

以上、対訳における「-다면서 tamyense?」に対応する日本語について見てみたが、日本語の場合、「んだって?」のほか、目上の人に対しては、「そうだ(です)ね」が使われ、また、「そうだな」のような表現も見られた。本稿は、「って」「んだって」を中心に考察したものであるが、今後、伝聞を表す表現や確認要求の形式を網羅的に考察する必要があり、課題である。

3.4 結論

以上の分析の結果を反映し、表1を見直すと、表4のようになる。

日本語		韓国語		
形式	意味機能	認知的意味	意味機能	形式
って。	引用(系伝聞)	証拠性	引用(系伝聞)	-대(다-고 해) ta-y (ta-ko ha-y)
って?	引用の 確認要求		引用の 確認要求	
んだって。	認識系伝聞		引用(系伝聞)	
んだって?	伝聞情報の 確認要求		伝聞情報の 確認要求	-다면서 tamyense?

表4 元話者が第三者の場合の「って」「んだって」と対応する韓国語について

結論をまとめると、以下のようになる。

- ① 文末の、元話者(情報源)が第三者の場合の「って」や「んだって」について、対応する韓国語を考えると、「って。/って?」や「んだって。」には引用表現が、「んだって?」には「-다면서 tamyense?」という文末複合語尾が対応する。
- ② 「って」は、基本的に引用であり、文脈により様々な用法を表すようになるものだと考えられるが、対応する韓国語が、引用表現になることが、一つの傍証になるだろう。「って。」やそれに対応する韓国語の意味機能として、「引用(系伝聞)」とあるのは、伝聞として意味機能が確立しているのではなく、文脈に依存する用法的なものであることを表すものである。
- ③ これに比べ、「んだって。」は、先行研究にも指摘されているように、認識系の伝聞であり、伝聞は、意味論的な意味として確立していると考えられる。韓国語では、認識系の伝聞はなく、引用表現による伝聞が対応することになる。

- ④ 「んだって?」「って?」は、伝聞情報（後者においては、聞き手における伝聞情報であると、話し手が想定したもの）であるとの証拠性は表すものの、その情報を聞き手に伝えるという伝達性が欠けており、もはや伝聞とはいいいにくい。問いかけることによって、聞き手に確認をもとめることから、本稿では、前者を「伝聞情報の確認要求」、後者を「引用の確認要求」としている。
- ⑤ 本稿では、これらの形式全体に共通する認識的な意味は、「証拠性」であると考えられる。「って」や「-대 (다고 해) tay (tako hay)」においては、引用することによる証拠性であり、「んだって」や「-다면서 tamyense?」に関しても、もとはというと、それらの形式が引用表現に由来することによると考えられる。
- ⑥ 最後に、「-다면서 tamyense?」に対応する日本語を見ると、「んだって」のほか、目上の人の場合「そうですね」になることがわかる。韓国語の場合、丁寧さを表す「ā (yo)」を接続した「-다면서요 tamyenseyo?」になり、「-다면서 tamyense?」に比べ、「んだって」は使用における制約があることがわかる。伝聞や確認要求の形式なども含めた網羅的な考察が必要であると思われるが、今後の課題にしたい。

4 おわりに

以上、元話者が第三者の場合の「って」「んだって」と、対応する韓国語について分析した。本稿における考察は、「って」「んだって」「ってば」、「-다면서 tamyense」など²⁷、日本語と韓国語における、引用表現に由来する文末複合表現²⁸の網羅的な考察の一環として行ったものである。今後、元話者が話し手や聞き手の場合を含め、さらなる検討が必要である。

最後に、日本語では、一つの形態が多くの意味機能を果たすように文法化しているのに対し、韓国語では、それぞれの意味機能に対応する個別の形態が文法化している傾向があると指摘されてきた。

しかし、本稿における考察から、韓国語において、「んだって。」のような認識系の伝聞は存在せず、引用表現が対応しており、以上のような傾向に反するものであり、興味深い。今後、文法化の観点からの考察も必要であろう。

韓国語において、「んだって。」のような認識系の伝聞が存在しないのは、韓国語には、「(する) そうだ」のような伝聞の形式が存在しないことと連動していると考えられるが、本稿のような研究が、日本語と韓国語の認識的な意味の全体像を眺め、両者のモダリティを考える際の一つの手がかりになるだろう。

注

- 1 韓国語では、間接引用が伝聞の意味機能を担うことになるが（詳細は、2.1）、本稿における韓国語の「引用表現」とは、伝聞などを含むものである。
- 2 例文は、一部の作例を除き、ドラマのシナリオやドラマのコーパス（実際発話されたせりふのSCRIPT）などからとっている。以下のような略語（括弧内）を用い、作例には「(作例)」と示している。
「パパはニュースキャスター (パパ)」、「子供が見てるでしょ！（子供）」、『日本語文型辞典（文型）』、「世宗計画コーパス (http://www.sejong.or.kr/sejong_kr/)」の文字化されているドラマより「보고 또 보고 pokko tto pokko（見て）」。
- 3 韓国語のローマ字表記は、Martin, Samuel E. et al. (1967) の表記法による。
- 4 李 (2007) では、「って」と「んだって」に対応する韓国語を概観し、所謂伝聞確認の「んだって」に「-다면서 tamyense」が対応することを指摘しているが、考察には至っていない。
- 5 남·고 Nam·Ko (1985 (1993)) には「叙述格助詞」とあるが、本稿では、便宜上「指定詞이다 ita（だ）」として提示している。
- 6 남·고 Nam·Ko (1985 (1993)) には、「請誘形」とあるが、便宜上「勧誘形」として提示している。
- 7 平叙文の「-다 ta」の前には、テンスが現れ、ここでは現在の「- (느 nu) ㄴ」が現れており、過去には「-았 a-ss/ 었 e-ss」。
- 8 「って」が直接取り上げられてはいないが、砂川 (2006a, b) では、「言う」を用いた複合辞の文法化に関する網羅的な考察を行っており、文法化の観点からの考察として、示唆に富んでいる。
- 9 鎌田 (2000) より引用。
- 10 疑問形の「-느냐 nunya」のついた文末の「-느냐면서 nunyamyense」はないが、これに関して、이필영 I, Pilyeng (1993) では、「-다면서 tamyense」は、元発話における発話内容の真偽を問う表現であるため、元発話が疑問の場合、その真偽を問うことができないため、「*-느냐면서 nunyamyense」は成立しないと述べている。
p.136
- 11 (2007)では、文末の「-면서 myense」も視野に入れ、文末の「-다면서 tamyense」の考察を行っている。
- 12 これに比べ、元話者が聞き手の場合（タイプI）では、命令や勧誘の「-(으)라면서 (u)lamyense」、「-자면서 camyense」も可能である。

- 13 これに比べ、元話者が聞き手の場合（タイプⅠ）には、文末の「-면서 myense」の同様に、「文脈的矛盾」の意味機能をもつことが指摘されている。詳しくは、李（2007）を参照されたい。
- 14 これに比べ、元話者が聞き手（タイプⅠ）の場合、文末の「-면서 myense」における主語制約や意味機能とパラレルな特徴をもち、また元話者の聞き手、つまり「하다 hata（言う）」の主語を示すことができ、「-다고 하면서 ta-ko ha-myense」との置き換えはできないものの、「하다 hata（言う）」の統語的な機能が残っていることが指摘されている。
- 15 宮崎他（2002）では、このような機能が基本的な機能ではないだろうかと述べている。
- 16 「(する) そうだ」や伝聞用法の「らしい」が「認識系の伝聞形式」として取り上げられている。
- 17 「って」に関しては、意思・勧誘・命令・依頼の形式に接続可能であり、情報源が主語として現れたりする点で、多分に引用構文の性質を残しているとも指摘されている。
- 18 詳細は、寺村（1984）を参照されたい。
- 19 森山（1989）では、「そうだ」は、「ようだ」「みたいだ」のような状況把握の形式に比べ、「情報把握」の形式であると述べている。
- 20 寺村（1984:255）
- 21 伝聞だけではなく、「ようだ、みたいだ、らしい、(し) そうだ、(する) そうだ」などいわゆる推定や伝聞を表すとされる形式類の認識的な意味として、〈証拠性〉を挙げている。宮崎他（2002:152）
- 22 詳細は、宮崎他（2002）を参照されたい。
- 23 格助詞「と」と接続助詞「て」の複合した「とて」と語源とする説と「と言って」を語源とする説があり、前者は、此島（1973）など、後者は田中（1977）など。また森重（1954）では、「ってば」との関連で、「って」は、「ってば」より二次的に成立したものと考えべきだと述べている。
- 24 『冬のソナタ』完全版、根本理恵訳
- 25 具体的には、以下のような、対応が見られた。

「-다면서(요)tamyense(yo)」 12例	「(する) そう (だ/です) ね」	7例
	「んだ/ですって」	3例
	「(する) そうだな」	1例
	「(する) そうだけど」	1例

また、話して言葉において、「-다면서 tamyense」は、「-다며 tamyē」と省略されることが多いが、今回の調査では、「-다며 tamyē」の例はカウントしていない。

- 26 グループ・ジャマシー (1998: 233)
- 27 韓国語では、他に、「-다니 tani」「-다니까 tanikka」「-다고 tako」などを視野に入れている。
- 28 日本語においては、いわゆる文末複合辞、韓国語においては、いわゆる文末複合語尾を表し、両者を含む用語として「文末複合表現」としている。

《参考文献》

- 고영근 Ko, Yengkun (1976) 「現代國語의 文体法에 대한 研究 (現代國語の文体法に対する研究)」『語学研究』 12-1
- 권재일 Kwen, Cayil (1998) 『한국어문법사 (韓國語文法史)』 도서출판박이정
- 김수태 Kim, Swutay (2005) 『마침법 씨끝의 융합과 그 한계 (終結語尾の融合とその限界)』 도서출판 박이정
- 남기김 Nam, Kisim (1973) 『국어완형보문연구 (國語完形補文研究)』 塔出版社
- 남기심・고영근 Nam, Kisim・Ko, Yengkun (1993) 『표준국어문법론 개정판 (標準國語文法論 改訂版)』 塔出版社
- 서정수 Se, Cengswu (2006) 『국어문법 (國語文法)』 한세본
- 안경화 An, Kyenghwa (1995) 「한국어 인용 구문의 연구 - 유형과 융합도를 중심으로 - (韓國語의 引用構文의 研究 - 類型と融合度を中心にして -)」 서울大學大學院言語學科 博士論文
- 안주호 An, Cwuhoo (2003) 「인용문과 인용표지의 문법화에 대한 연구 (引用文と引用表示の文法化に関する研究)」『담화와 인지』 담화인지언어학회
- 이상복 I, Sangpok (1983) 「한국어 인용문 연구 (韓國語의 引用文의 研究)」『국어의 통사・의미론』 탐출판사 132-149
- 이희자・이종희 I, Huyca・I, Conghuy (1999) 『사전식 텍스트 분석적 국어 어미의 연구 (辭典式テキスト分析的國語의 語尾의 研究)』 延世大學校言語情報開發研究院 韓國文化社
- 이필영 I, Pilyeng (1993) 『국어의 인용구문 연구 (國語의 引用構文의 研究)』 塔出版社
- 한길 Han, Kil (2003) 『현대 우리말의 마침씨끝 연구 (現代國語의 終結語尾研究)』 역락
- Kim, Minju (2002) On the emergence of Korean concessive myense: Focusing on the grammaticalization of se. *Japanese / Korean Linguistics* vol.10

- Kim, Minju (2006) A corpus-based study of the grammaticalization of the Korean connectives *mye* and *myense*: From simultaneous to quotative to hearsay evidential. *Japanese/Korean Linguistics* vol. 13
- Kim, Nam-Kil (1990) Hearsay Evidential In Korean 『二重言語学会誌』 7 이중언어학회
- Martin, Samuel E. et al. (1967) *A Korean-English Dictionary* Yale University Press
- 鮎澤孝子 (1988) 「『話しことば』の特徴－聴解指導のために」 『日本語教育』 64号
- 李光輝 (2005) 「韓国語と日本語の文末表現の研究－「-라니까 lanikka」と「ってば」について」 『日語日文学研究 53-3』 韓国日語日文学会
- 李光輝 (2006) 「韓国語の文末表現－tanikka類について－」 『東京大学 21世紀 COE「心とことば－進化認知科学的展開」研究報告書日本語と朝鮮語の対照研究』
- 李光輝 (2007) 「韓国語の文末表現「-다면서－tamyense」類について」 『言語情報科学』 5
- 李光輝 (2008) 「韓国語の文末表現「- tako」の文法化とその意味機能について」 『言語情報科学』 6
- 岩男孝哲 (2003) 「引用文の性質から見た発話「～ッテ。」について」 『日本語文法』 3巻2号
- 鎌田修 (2000) 『日本語の引用』 ひつじ書房
- 金善眞 (2005) 「「～ッテ」文の引用的性質と機能」 『日本語文法』 5巻1号
- グループジャマシイ (1998) 『日本語文型辞典』 くろしお出版
- 砂川有里子 (1987) 「引用文の構造と機能－引用文の3つの類型について」 『文藝言語研究 言語編』 13 筑波大学文芸・言語学系
- 砂川有里子 (1988) 「引用文における場の二重性について」 『日本語学』 7－9 明治書院
- 砂川有里子 (1989) 「引用と話法」 『講座 日本語と日本語教育』 4 明治書院
- 砂川有里子 (2006a) 「「言う」を用いた慣用表現－複合辞の意味記述を中心に－」 飯島説尚編 『日本語辞書学の構築』 おうふう
- 砂川有里子 (2006b) 「「言う」を用いた複合辞－文法化の重層性に着目して－」 藤田保幸・山崎誠編 『複合辞研究の現在』 和泉書院
- 寺村秀夫 (1984) 『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』 くろしお出版
- 仁田義雄 (1987) 「日本語疑問表現の諸相」 『言語学の視界』 大学書林
- 野村真一 (2000) 「「Sって文」伝聞用法の分析」 『金沢大学語学・文学研究』 第28号
- 藤田保幸 (2000) 『国語引用構文の研究』 和泉書院
- 藤田保幸 (2003) 「伝聞研究のこれまでとこれから」 『言語』 2003. 7 大修館書店
- 堀江薫 (2001) 「膠着語における文法化の特徴に関する認知言語学的考察－日本語と韓国語を対象に－」 『認知言語学論考』 ひつじ書房

堀口順子（1995）「会話における引用の「～ッテ」による終結について」『日本語教育』85号

南不二男（1985）「質問文の構造」『朝倉日本語新講座4 文法と意味』朝倉書店

宮崎和人・安達太郎・野田春美・高梨信乃（2002）『モダリティ』くろしお出版

森重敏（1954）「「て、って」「てば、ってば」「たら、ったら」について」『国語国文』京都大学（『日本文法の諸問題』笠間書院1971再録）

守時なぎさ（1994）「話し言葉における「って」について」『筑波応用言語学研究』1筑波大学 大学院 博士課程 文芸・言語研究科 応用言語学コース